



関西国際空港にて、待機中の飛行機へ電気供給を行う 電気式移動電源車「eGPU」の実証実験を実施

関西エアポート株式会社は、関西国際空港第2ターミナルにおいて、待機中の飛行機へ電気供給を行う電気式移動電源車「eGPU（electrical Ground Power Unit）」の実証実験を、3月27日（金）より実施することをお知らせいたします。本実証機を導入するのは、国内空港では初めての取り組みとなります。

なお、本実験は株式会社エージーピー、関西エアポート株式会社、多摩川エアロシステムズ株式会社、Peach Aviation 株式会社（50音順）の4社共同で行います。

関西国際空港の第1ターミナルでは、駐機中の航空機へ電力の供給を行う航空機用動力設備「GPU（Ground Power Unit）」が地下に埋設されており、固定のケーブルから各航空機へ電力の供給を行うことができます。供給された電力は駐機中の航空機の照明等に利用されます。一方で、第2ターミナルでは常設のGPU設備がなく、航空機の補助エンジンによる自家発電、もしくはディーゼル発電機を車両に搭載した移動式ディーゼルGPUによって電力を供給しています。

関西エアポートグループでは、ゼロエミッション空港を目指しており、環境負荷の低い車両の導入を推進しています。この度、航空機の補助エンジンによる自家発電やディーゼルGPUと比べてCO₂排出量が少ないeGPUの導入を検討するため、実証実験を行うこととなりました。今回使用するeGPUは、充電式で低騒音なのが特徴です。CO₂排出量は航空機の補助エンジンによる自家発電の約30分の1、ディーゼルGPUの約10分の1となります。

関西エアポート株式会社は、今後も関連事業者のみなさまと環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、周辺環境と共生した空港の発展をめざしてまいります。



使用イメージ

【実証実験概要】

期間：2020年3月27日（金）～7月31日（金）

場所：関西国際空港 第2ターミナル

事業者：株式会社エージーピー、関西エアポート株式会社、多摩川エアロシステムズ株式会社、Peach Aviation 株式会社（50音順）

実施内容：駐機中の航空機のゼロエミッションを目的とした将来的なeGPU導入検討のため、試験運用を行う。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
企画・管理部 コーポレート・コミュニケーションズ
Tel：072-455-2201

関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス40%、 ヴァンシ・エアポート40%、 その他の出資者20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界37カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、45空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するブラジル、カンボジア、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、フランス、日本、ポルトガル、セルビア、スウェーデン、イギリス、そしてアメリカ合衆国の空港には、合計で250社以上の航空会社が就航し、2019年の旅客者数は2億5,500万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2019年の連結売上高は26億ユーロ、グループ全体の売上高は49億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構



写真提供：Peach Aviation株式会社